

病院の実力

*福井編 112

腰痛

今回の病院の実力は、腰痛をテーマとした。

内視鏡技術認定医を公表

病院の実力「腰痛」

医療機関別2016年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰部脊柱管狭窄症の手術(人)		②のうち低侵襲手術(人)	
	手術(人)	①のうち低侵襲手術(人)	②のうち低侵襲手術(人)	②のうち低侵襲手術(人)
石川県				
県立中央	146	98	46	46
藤田整形外科ク※	62	56	68	68
金沢医大	55	21	10	10
米澤	21	—	14	—
浅ノ川総合	3	1	16	16
福井県				
福井大	76	76	12	12
福井総合病院	58	58	30	30
県済生会	41	3	38	15
福井県立	23	21	59	59
大森整形外科	20	0	16	0
滋賀県				
日野記念	215	1	87	84
滋賀医大	150	0	24	11
市立長浜	71	26	24	9
長浜赤十字	59	59	15	15
京都府				
京都市立	123	19	8	8
武田総合	100	100	46	46
京都大	100	0	14	14
洛和会丸太町	86	—	31	24
京都第一赤十字	83	83	16	16
国・京都医療セ	69	0	11	11
堀川	68	68	24	24
京都中部総合医療セ	65	0	9	0
京都岡本記念	56	0	21	0
京都民医連中央	47	47	5	5
洛西シミズ	41	7	12	12
宇治武田	33	33	15	15
武田	11	10	12	11

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック。「—」は無回答または不明。※「藤田整形外科ク」の手術は、木島病院で実施。

*全国の調査結果は「くらし健康・医療面」に掲載しています。

「椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰が痛む病気だ。「脊柱管狭窄症」は、加齢によって椎骨をつなぐ靭帯が厚くなったたり、椎骨がずれたりして、神経が通る脊柱管が狭くなって起こる。

2016年に手術を受けた患者数を載せた。また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開く傷口が通常よりも小さい2〜3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いこと入院期間が短くなったりするなどの長所がある。

ただ低侵襲手術は、手術の難易度は高くなる。日本整形外科学会は、内視鏡を

使った脊椎手術については技術認定医を公表しており、ホームページで確認できる。腰痛治療で注意したいのは、必ずしも手術が最良の治療とは限らない点だ。椎間板ヘルニアは、手術をしなくても1年後には9割以上が回復するとの研究報告もある。また、脊柱管狭窄症の手術では、痛みは改善しても、しびれが残る場合もある。手術が必要かどうかは医師によく相談する必要がある。